

第2回小牧市立米野小学校改築基本構想・基本計画策定業務委託
プロポーザル審査委員会 会議概要・議事録

◇会議概要

○日 時 令和4年10月17日（月）午後1時30分～午後5時00分

○場 所 小牧市役所 本庁舎4階 404会議室

○出席者

【審査委員】

中村 研一委員（委員長、中部大学教授）

鈴木 賢一委員（委員長職務代理者、名古屋市立大学大学院教授）

中川 宣芳委員（小牧市 教育委員会 教育長）

石川 徹委員（小牧市 教育委員会事務局 教育部長）

富嶋 恵子委員（米野小学校長）

【事務局】

小牧市 教育委員会事務局 教育総務課 小川課長、笹尾係長、江口主事

○傍聴者 0名

○技術提案書提出者（5者）※五十音順

一般社団法人 地域問題研究所

株式会社建設技術研究所 中部支社

株式会社地域計画建築研究所 名古屋事務所

日本工営都市空間株式会社

ランドブレイン株式会社 名古屋事務所

○会議内容

1 あいさつ

2 議事

（1）会議の公開について

（2）プレゼンテーション及びヒアリングについて

（3）最適者及び次点者の特定について

3 その他

○審議結果

最適者：株式会社地域計画建築研究所 名古屋事務所

次点者：株式会社建設技術研究所 中部支社

◇議事録

1 あいさつ

中村委員長よりあいさつ

2 議事

(1) 会議の公開について

[事務局より説明]

- ・議事のうち『(2) プレゼンテーション及びヒアリングについて』のみ公開とすることで決定。

(2) プレゼンテーション及びヒアリングについて

[プレゼンテーション及びヒアリングの進め方について事務局より説明]

- ・A者プレゼンテーション
- ・A者ヒアリング（質疑応答）

鈴木委員：小牧南小学校に携わった経験を踏まえた点があれば教えて欲しい。また、最後に説明されたアクティブラーニングについて、これから重要になると思うが、建築的に何かアクティブラーニングのための校舎なり部屋なりに対する計画の考えがあれば知りたい。

A者：小牧南小学校では建て替えの際にグラウンドや駐車場が使用できないことがあったと聞いているので、米野小学校ではグラウンド、駐車場の継続的な利用の仕方を計画の中で反映していきたいと考えている。

また、小牧南小学校の時とは状況も変わっており、コロナ禍に整備する学校ということ踏まえての教室配置を考えていきたい。ZEB についても一層推進されており、環境負荷を減らし太陽光発電等を用いて災害時に活用できるよう独立した非常電源等についても確保できるような、地域の平常時と災害時を含めてのあり方を検討したい。

アクティブラーニングについては、廊下の境目を明確に仕切らない学校も増えてきている。廊下を単なる通行のためのものと捉えず、多様な教育活動に資するような空間配置も考えられるかと思う。当社の事例で、廊下より少し広いスペースがあり、校舎と廊下を区切る仕切りを可動式にし、広く一体で使用できるように整備したものがある。学年単位の簡易な集会ができたり、グループ活動に使えたり、教師ステーションの配置等の取り組みもしているので、その辺りを計画に取り入れていきたい。

中川委員：災害時の避難所機能として、1階の床高を50センチ上げるとあったが、それに伴う障がい者等への配慮について詳しく聞きたい。

A者：最大で50センチの浸水が予想されているので、対策としてかさ上げを検討している。敷地全体のかさ上げは費用や工期の影響が大きすぎるので、基礎を高くする。バリアフリーとしてはスロープを出入口等に設置する。体育館等災害時に人が集まるところに一番影響が出ないように考えている。

中川委員：50センチかさ上げすることによって、バリアフリーのスペース拡大を考えているということか。

A者：その通り。スロープは12分の1勾配だと6m程度必要になると思われる。

石川委員：校舎配置にあたり、米野小学校の主な課題、問題点をどうクリアするか、どこに重点をおいて企画書を作成されたか教えてほしい。

A者：費用や工期面から仮設校舎無しを基本として考え、A案、B案のような南側か東側の校舎を考えている。その際、体育館の改築も行うのであればA案のように体育館を隣接して作る。それによって災害時にも利用しやすい配置になると思う。児童クラブを複合化する場合も、一体でまとまりがある。既存体育館を残すB案の場合、校舎を東側に設置することで校内の移動もしやすい。敷地右側に川もあって、景観上も良いのでは。できればA案かB案の仮設校舎が不要な配置を検討していければと思っている。

石川委員：工事のアクセスが非常に厳しいことを考えられたと思うが、そのあたりの配慮はどのように考えているか。

A者：南東側出入口から工事車両が入る形で考えている。そこを中心に出入りをして、既存校舎の解体については、西側にある児童があまり利用しない出入口を中心に利用する。工事車両が住宅街を数ヶ月通ることにはなるが、そこから工事車両の出入りを考えている。

中村委員：本件は小学校の計画だが、小牧市全体の公共施設の中でどういう位置付けが考えられるか、考えを聞きたい。

A者：子供の教育環境ということで未来を作っていくような生活の場、教育の場ということで重要な施設ではありつつ、提案書にもあるように地域から寄贈品をたくさん頂いているなど、地域に親しまれていた学校だと考えている。そういった記憶を継承できるようなスペースを維持しつつ、地域が災害時のみ利用するのではなく、地域と常に何かしらの活動ができる空間、地域側からも利用しやすい配置で常に地域との交流ができるような環境で子供が育っていける場になればと考えている。そういった意味で単なる学校整備というより、地域とうまく結びつけて機能していくものを考えている。

中村委員：配置計画の理想として、今言っていた地域とのつながりを考えると、どういう配置が一番良いと考えているか。

A者：当社としてのベストはA案と考えている。道路に比較的近いところに校舎があり、できれば道路側に地域が利用できるようなスペースを設ける。そうすることでセキュリティ上の問題もクリアしつつ人々の行き来による見守りが行えると考えている。校舎の性能としても東西軸が長く取れ、日当たりの良

い環境になる。グラウンドに多少日陰はできると思うが、最近の夏の暑さを考えるとむしろ少しは日影があった方が良くとも考えられるので、敷地南側に校舎を設置するA案が良いと考えている。

富嶋委員：日当たりについて、A案だと広場等と書かれているあたりが日陰になるのか。グラウンドまでかかるのか。

A者：グラウンドまではかからないと思うが、高さによるところである。あくまで今回の提案書では配置の考え方を示しており、プランニングの中で建物の形状、高さ方向も検討するので、その中でグラウンドに日陰ができないものが良いということであれば、それも踏まえた上での検討はさせていただく。

・ B者プレゼンテーション

・ B者ヒアリング（質疑応答）

鈴木委員：具体的に配置計画をいくつか挙げているので、それについて尋ねたい。

案3、4について、体育館は何らかの手を加えるが改築はしないということ考えられているか。

B者：その通り。

鈴木委員：プールについてはどうなるのか。

B者：配置案では一旦プールを置いているが、プールについては先程提案した手法で将来的なコストを見据え、新しい実現方策があるのであれば、色々な案について検討していきたいと考えている。

鈴木委員：プールについてはまだ状況もはっきりしていないので、これからということか。

B者：その通り。これは特に校舎の位置をどう考えるか、仕様書記載の3年以内で子供たちが新しい校舎で学べるように、というところで大きなイメージでの提案をしている。

中川委員：合意形成、意見聴取にある、SDGsカードゲームを用いて子供たちが持つ持続可能な学校についての考えを出させたい、共有させたいという点について、具体的にSDGsカードゲームを用いて意見集約をしてきた実績はあるか。

B者：当社には無いが、一緒に合意形成を行っている外部の方がおり、可能であれば今回もその方に入っていたきたいと考えている。その方は実績があるので、外部委託として許可を頂ければ一緒に合意形成、意見聴取を行っていききたい。

中川委員：SDGsカードゲームの中で、改築に関わる部分はこういった形で出てくるのか。

B者：子供たちに具体的なことを聞くのは難しいと思うので、自分たちが学ぶ場所だとか、どんなことが学校の中で展開できればいいのかという意見を集め、それを我々の方で集約して委員会の方にフィードバックをし、計画に位置付けられればと考えている。

中川委員：すると今回B者に業務委託した場合、その方をスタッフの一員としてお

呼びいただけるということか。

B者：その通り。ファシリテーターとしては有名な方で、別業務の公共施設の再編で地区の方々とワークショップを進めているが、それもその方が一緒に入って行っている。

中村委員：2点質問をしたい。1点目は配置案4が8階程度の高層型と書かれていることについて。今回の敷地条件の中で高層型も十分検討する価値があるという考えかと思われるが、B者で高層型の実績があれば、これが配置案の候補として残っていることの説明も含めてしていただければと思う。

2点目、説明の最後にあった地域とのつながりという観点から、小牧市全体の公共建築の中で今回の小学校をどのように位置づけるかということをもう少し聞かせてほしい。

B者：提案書は8階程度と記載しているが、校舎の割り方、棟の割り方をどうするかによって変わってくる。1棟でとなれば8階程度という事もあり得るが、旧校舎と同じように、3棟に区分けするという事も考えられるので、必ずしも配置案4は高層型のみを想定している訳ではない。

今の学校ではエレベーターが必要になることも十分想定される中で、棟を区分するとエレベーターのコストも余分にかかってくる。今は配置案を4つ出しているが、案4の中から更に案4-1、4-2と様々な点を考慮して検討していきたいと思っている。その中で比較検討の一つとして高層型も議論の題材として出す必要があるということで配置案に記載をした。

地域とのつながりについて、県内で公共施設の再編をしているが、地域の皆様からすると学校は非常に大きな地域核であるとよく認識している。今後、公民館や地区の集会所を維持していくのは難しくなっていく中で、地域核である学校と地域コミュニティをどう共生していくのか議論していくことが重要だと考えているので、先ほどワークショップで提案したように学校だけでなく地域の方の意見も聞きながら合意形成していくことが非常に重要なポイントだと思っている。

中村委員：地域コミュニティへの接続ということで考えると、4つの案のうちどれが優れていると考えているか、今なにか考えがあれば教えて欲しい。

B者：地域の方にとっては今の校舎のあり方が思い出深くあると思っている。旧校舎やグラウンドの形態についても思い出の大きな一つだと思っているので、どれが一番良いかという答えにはなりにくいですが、そういう意味では単純に旧校舎と同じ位置に新校舎を建てる案1、2を捨てきれぬかということも含めて検討していかざるを得ないと考える。

鈴木委員：これからの学校の子供たちの学習環境について何か考えがあるか。これまでの学校とはこういう辺りを変えていったら良いのではないかなどの考えがあれば聞かせてほしい。

B者：ハード的に学校が得るべき要素という中で、トイレのあり方、遊具の考え方

についてももう少し多様性をもった建築計画としての落とし込み、学校に付随する必要な機器の考え方については提案書の中でインクルーシブ教育と書いたが、そういった観点をしっかり持って計画をしていきたいと考えている。

鈴木委員：性的な疑問を持っている子、障がいのある子への配慮ということか。

B者：そういう点について我々から提案を積極的にしていきたいと考えている。

その他に、我々はコンサル担当ではあるが、業務担当体制のところでも説明したようにメンバー全員が建築士ということで、体育館の改築の有無は将来コスト等の表を作成しながら説明していきたいと思っており、改築する学校そのものの将来的なコスト負担もどう考えられるか、持続性という事でいかに改変性を持った計画等の今後の設計に向けた設計思想をこの基本計画で十分議論されるべきだと思っているので、そのためのバックデータについて我々の方からしっかりと提案させていただきたいと思っている。

・C者プレゼンテーション

・C者ヒアリング（質疑応答）

鈴木委員：提案書に小学校基本計画におけるゾーン構成の比較検討例という図があるが、配置計画ではハードの視点でしか考え方が提示されていない。配置とこれからの新しいゾーニングという視点はリンクして考えることは可能か。

C者：機能構成は児童教職員の生活の場として非常に重要。機能構成の検討、ローリング、配置計画がどのように収まっていくかはしっかりリンクさせて進めていきたいと考えている。

鈴木委員：今提示されている3案でいうと、どれが将来的に米野小学校にとって良いと思われるか。

C者：改築協議会やアンケート結果を踏まえることが重要ではあるが、メディアセンターを中心に置きつつ、メディアセンターに人が集まり交流が生まれるような検討をしていきたいと思っている。今示している3案は全てメディアセンターを中心に置いているので、そこにどういった特別教室を組み込んでいくかがこれからの検討課題と思っている。

鈴木委員：メディアセンターとは小牧南小学校の中心にある図書館のようなイメージで良いか。

C者：類似としてはその通り。ただし小牧南小学校と同じものを作るのではなく、改築協議会で米野小学校ならではの学校づくりや特色を十分に検討し、米野小学校でしかできない学校というものを追い求めていきたいと思っている。

中川委員：小中学校の計画について多岐にわたって提案されているが、C者として小学校に対する基本的なコンセプト、中学校に対する基本的なコンセプトに違いはあるか。将来的に小学校でも教科担任制を行っていくことになるが、小学校と中学校の良さを取り入れた提案はしてもらえるのだろうか。

C者：当社の業務実績として小中一貫校の構想計画を色々行っており、小中連携の良さとしては、中学生が小学校のお兄さんお姉さん役となってスモールティ

一チャーターのような形で交流が生まれることである。その交流が中学生の成長するプロセスになり、小学生については憧れの的になるといった相乗効果が必ず生まれると思う。

米野小学校でも応時中学校と何とか小中連携のような形で交流できる機会が持てると良いのではないかと考えている。例えばランチルームで1ヶ月に1回給食を一緒に食べる機会を設けるなど。

空間的には小学校と中学校で体格差が違うという問題がある。例えば階段の蹴上や水道の高さ。同じ空間で遊んでいると体格差で事故が起こる可能性はあるが、お兄さんお姉さんといった上の人と人間関係を作るには非常に小学校中学校は重要だと思っている。

中川委員：小学校での主体的な教科の学びを進めるに当たっての空間スペースについて、何か特徴的なスペースはあるか。

C者：従来型のような固定化された教室では無く廊下側の壁をなくして、共用空間と一体的に利用し、今までのような対面型で先生の話聞くだけでなく、子供たちがプレゼンテーションや他のクラスにも発表ができるような柔軟性のある空間を業務の中で提案していきたいと思っている。

一般的な普通教室に可変性、柔軟性があり空間利用が変わるという事は重要だと考えている。機能配置の事もあがるが、普通教室が一番長く過ごす場所だと思うので、その空間の変容をどのように計画してくか非常に重要だと考えている。

石川委員：用途変更や間仕切りの変更が容易に行える構造を計画とあるが、普通教室ではなくどこかオープンフロアを作るということでの可変的というイメージか。

C者：従来型の教室だと廊下側に壁があり、両サイドに出入り口があるが、その壁を片側に寄せられるようにする。構造躯体上無くても良いものは動かせるようにするのが一つのポイントと考えている。柱や構造壁は動かさないが、簡易な間仕切りは自由に動かせるようにして、将来的に児童数が減少した場合、違った用途で使えるなどの対応も可能になるので、そこは重要に考えている。

石川委員：配置について、C者が考えられた配置の観点の重きを教えて欲しい。

C者：まず共通の考え方としてあるのは、普通教室の明るさをしっかり確保すること、既存の緑地帯をできるだけ保存することを考えている。それを踏まえて、既存体育館を残すことでのメリット、ローリングが児童の生活に影響を与えないかどうかという観点からこの3案を比較検討している。業務の中では先程の空間構成の話と最終的に統合していくイメージで進めていく必要があると考えている。

石川委員：周辺道路のアクセスが悪く工事しにくい場所であるが、それについての考慮については。

C者：西側の道路が狭いと認識しており極力南東側から搬入ができれば良いと思っ

ているが、配置のメリット、工事の安全性、南東からの搬入を取るのかを比較検討する必要があると思っている。やむを得ず西側から入る場合は、時間を限定して工事車両を入れる等の工夫でデメリットを避けることもできると考えているので、その辺りも併せて比較検討したいと考えている。

富嶋委員：プールについてももう少し詳しく説明をして欲しい。

C者：プールに関しては配置図上で明示していないが、新しい学校でもプールを整備するかどうかを早めに検討していき、作る場合は校舎棟と一体型のプールを考えたいと思っている。

中村委員：可能性として屋上に乗せるというのも考えたほうが良いのではないかと
いうことか。

C者：その通り。その方が土地利用上も良いかと思う。

中村委員：まちづくりとの関係等にも十分に配慮し、非常に良いアプローチをして
いると思う。今提案していただいた3案の中でまちとの関係という点でいく
と、どの案が一番良いと考えているか。

C者：実現性が高く、まちとの関わりに配慮していけるのがB案ではないかと考え
ている。A案は建物の配置が非常に複雑で効率が悪い。B案であれば現在の
環境を維持しながら工事が進められ、良いのではないかと。C案に関しては今
までの配置と全く変わるが、南側に普通教室というのは大原則にしており、
後は体育館、グラウンドの位置関係が今までの小学校と全く変わってしまう
点で、地域の方にもご理解をいただかないといけないと考えている。

中村委員：もう一点、ゾーン構成の比較検討例でメディアセンターを中心にと最初
の質疑にもあったが、違いが分かりづらい。3案ともメディアセンターが中
心にあって、コミュニケーションスペースのようなものが加わったり出たり
しているが、3案の違いは。

C者：メディアセンターにどのような機能を付加させるか、なおかつその部分を地
域開放するかどうかというところ。メディアセンターに関しては地域開放を
検討される学校もあったし、セキュリティ上できないということもある。た
だ稼働率を高めたり、郷土の資料等を蔵書していくならメディアセンターを
地域の中での図書館という扱いに変えていくということもまちづくりとし
ては効果的かと思うので、そこは改築協議会でも提案できればと思っている。

・D者プレゼンテーション

・D者ヒアリング（質疑応答）

鈴木委員：改築協議会について関係者を巻き込んでとあるが、直接やり取りする期
間は短いので、協議会は会議形式ではなくグループワーク中心のような形式
を取るということか。

D者：事務局との相談にはなるが、アンケートやワークショップの結果を見ていた
だいた上でディスカッションできるような、委員の皆様から積極的な意見を
貰える場にしたいと考えている。

鈴木委員：教職員、地域住民へのワークショップはグループディスカッションで行うと思われるが、そこで得られた成果を協議会へ持ち込んで協議していくというイメージか。

D者：その通り。

中村委員：配置計画として3案が示されているが、まちづくりという観点からどんな配置計画が良いか考えがあれば教えてほしい。

D者：提案書記載の配置案のどれが良いか、ということではないが、地域の方がアクセスしやすいという点とセキュリティ的にラインをどこに引くのかということのせめぎあいになるだろうと思っている。その中で児童クラブ、地域活動、学校の児童の安全性についてデザインゲームをしながら検討していければ良いと思っている。市から課題でもあった児童クラブを今の校舎に合築する中で、どのように管理していくかもしっかりと協議しながら施設配置は考えていきたいと思っている。

ただ、議論してから検討ということだとスケジュール的に厳しいところもあるので、技術的にどう配置するかは我々の方でどんなパターンがあり得るかというのを提示していきたい。後は工事中を含めて学校運営、地域活動が継続できるような形を重視していきたいと思っている。

中村委員：体育館改築の有無について、色々な検討項目を挙げていただいているが、プールに関してはどのように考えているか。

D者：プールについて、小牧市がこれからプールを全市的にどうするかに関係してくると思うが、現地説明会等で伺ったところ、今のところは各校にプールを設け水泳の授業も従来通りということなので設置を検討しているが、プールを独立させるのは空間的に厳しいところもあるので、体育館とプールや先程説明した地域開放のスペースを一体的に空間利用というのものもあるのではないかと考えている。

屋外プールは外から見られるといった話もあるので、コストはかかるが、屋内プールも選択肢の一つと想定はしている。

中川委員：災害対応について、災害時に学校施設が避難所として機能することもある中でその辺りについての考えが具体的にあれば教えてほしい。

D者：災害が長期化すると体育館が避難所として使用されたまま学校活動が再開される状況が可能性として考えられる中で、体育館エリアで避難所機能、災害対応機能が完結できること、学校の授業に影響を及ぼさずに線引きができる空間計画、セキュリティの計画を考えていかなければと思っている。体育館については外から出入りしやすいことも当然必要なので、その辺りも与条件として含めながら、何を優先すべきかという事を含めて検討の素材にしていきたいと思っている。

中川委員：その辺りについてはワークショップ等を通じて意見を聞きながらということが良いか。

D者：その通り。ただ、既設体育館をそのまま使うとなっても、避難所の機能を果たそうと考えると今の温熱環境では長期滞在が難しいと思われるので、仮に既設体育館を使う場合でも温熱環境の改善を含めての大規模改修は必要と考えている。

中村委員：周辺環境を考えると、搬入経路等どのような工事になるか考えた時の配置計画との関係について何か考えがあるか。

D者：大型の工事車両は南東側の門を主に使わざるを得ないと理解している。工事の最後までそちら側にあまり児童が近寄らなくても良いような仮設あるいは工事計画は必要になると考えている。西側や北側に工事車両が入ると住環境への影響があるので、一方通行で車両経路をしっかりと作った上でうまく回すことは想定している。その辺り地域の方にお話を聞く際に普段の車の動きや皆様の感覚も含めて聞き取り、検討素材としていきたいと考えている。

中村委員：この点は改めて強調したいようなところがあれば補足していただきたい。

D者：他の会社と我々の違いとしては、アンケート、ワークショップ、協議会といった流れの中で、関係する教職員、地域住民、児童の皆様を含め、どう関係性を築いていきながら、意見を取り入れながらやっていくかというプロセスを非常に重要視しているところだと思う。ワークショップ等は学校の都合などで実施できないこともあると思うが、その場合でも、規模は縮小するかもしれないが現場の先生方など今使っている方の悩みなどの生の声を聞く機会は何らか設けたいと思っている。

中村委員：色々な条件をある程度考えず、理想を追求するとしたらどのような配置がふさわしいかという考えがあれば聞きたい。

D者：ひとつのテーマとして仮設校舎にどういう意義を出すか。今の校舎位置に建て替えるのであれば仮設校舎が必要にはなるが、一方で小学校としては校庭が広いということもあるので、今の学校生活を送りながら仮設校舎を建てずに南側に校舎を建てるのも一つの選択肢だと思う。ただその場合は北側、西側の地域住民の方へ児童のアクティビティの声が筒抜けになるという点は出てくると思うので、その辺りは地域住民の声や学校での今の状況等をもう少し聞きながら判断していく必要があると思う。今はコスト面から見た一つの考え方なので、色々な条件を整理し、先生方のアドバイスも頂戴しながら決めていきたいと思う。

中川委員：合意形成を図る上で、地域住民の年齢層、属性を考慮して500人のアンケートを実施する予定と書かれているが、500というのは校区の人口から考えて割り出された数字なのか。

D者：統計的には500人で十分と考えている。年齢、世帯などの属性を何らか学校との関りを持っている方に限定するなど500人の抽出方法は色々考えている。数字的にこれ以上増やすのであれば紙ではなくスマートフォンからの回答をできるようにし、アドレスを回覧等で回して誰でも住民であれば回答

できるやり方がある。これならばコストもかからないが、意見を聞いたならそれに対して対応していかなければならないので、やみくもに大勢に聞くのではなく、答えを受け止めるということもしっかり考えながら検討していきたいと思っている。

・ E者プレゼンテーション

・ E者ヒアリング（質疑応答）

鈴木委員：これからの新しい学習環境を作っていきたいということで、例えば提案書にある文部科学省から新しい時代の学びを実現するプランというのを掲げているが、E者でどのような学校を作り上げるかといった考えがあれば聞きたい。

E者：企画提案時にいくつかプランを考える中で、効率性や学校活動への影響が少ないという視点と、それと相反する部分でやはりより良い教育環境を作るとか新しい視点を踏まえた学校のあり方というのも検討していかないといけないので、それらを両方とも加味した形でより良いものはこうではないかということで提案をしている。

この中では校舎を南側に配置し南北に並べる形で2棟を想定している。多目的な利用ができ、子供たちが自由な教育環境の中で育てるような教室のプランのあり方を取り入れながらも、中庭になる部分にビオトープや図書スペース、米野っ子テラスという子供たちが自由にふれあい交流し自由な学びをできるような空間を作るということを意識しており、情操教育につながるようなフレキシブルに使い、多目的な利用の中で様々な学びができる場を学校の随所に作っていくことが大事になってくると思っているので、そのような配置、考え方を意識している。

後は地域との関わり合いをより深めるということも重要になってくると思うので、今回テーマになっている児童クラブのあり方だけではなく、既存の体育館あるいは新しく作るプールの活用を含めて地域の方の活動領域と子供たちの活動領域をどのように区別しながらもしっかりと交流ができるようにするかというようなことも踏まえての検討を考えている。

鈴木委員：ICT等の新しいタイプのツールを持ち込むようになってくると思うのだが、そのあたりの考えはあるか。

E者：デジタル化に対応した校舎、授業のあり方というのは今後必ず必要になってくるので特別教室棟の活用であるとか、あるいは今回特別教室に絡めて展示室を作りながら、地域の歴史等の発表や公表によって皆さんが共有できる場を考えており、そういったところにもデジタル技術を活用することで、新たな展示や情報共有のあり方も出てくるかと思うし、図書スペースについてもデジタル化に対応した形で新しい学校図書館のあり方というのも模索したいと思っている。

鈴木委員：展示室というのは今までの米野小学校に蓄積されたものを展示するもの

か。

E者：その通り。様々な生活道具や歴史的な資材をご提供頂くということが前提になっているので、それらを展示すると共にそれを継承し、皆さんでしっかり活用できるような形に出来れば良いと思っている。

中川委員：市のファシリティマネジメント、学校長寿命化計画の方に携わっていただいているが、そういったものが活かされている部分はどこになるか。

E者：建物の現状調査を行っており、今回のポイントとして体育館を既存利用するか建て替えるかというのがありますが、劣化調査の結果としては特別大きな問題が無いと分かっている。今後の長期的利用で言うとまだまだ使えるものなので、その時にライフサイクルコストがどのくらいかかるかという結果などを活かしながら費用対効果ということの検証に使っていければと考えている。

中川委員：仮に体育館を現状のまま活用する場合、災害時の避難所ということをごの先想定しなければならない。すると体育館空調の関係で断熱性を強化したうえでというような話も出てくるが、その辺りどう考えているか。

E者：改築した方が耐用年数としては長く使えるので、改修した場合の費用と年あたりコストで見比べて比較検討していきたいと思う。

石川委員：児童クラブの複合化の検討手法という提案で先進都市の具体事例も織り交ぜてもう一度説明してほしい。

E者：ここでは具体的なものというよりは検討手法としての提案になるが、まず新たに校舎を改築していく中で、児童クラブを今のものを使うのか、あるいは校舎との関係性で新しく整備していくのかという検討が必要になってくるかと思う。建築計画として建物一体型の形にするのか、あるいは区分しながらというパターンの整理をしながら、そういった使い方をする時のメリット・デメリット等がそれぞれ出てくると思うので、それを各種先進事例でどう運用されているのか、あるいはその建築パターンによる使い勝手の良さ悪さというのがどういったものがあるのかということも、事例を用いて整理しながら検討に活かしていきたいと思っている。

また小牧市において、他の学校で色々な運用がされていると思うので、その辺りの蓄積も踏まえながら、一方で恐らく今後こうしていくべきだという政策的な方向性もあると思うので、それをベースにしながら事例、建築パターンの比較検討を重ね合わせ、どういうあり方がベストなのか検討できればと考えている。

富嶋委員：合意形成ということでワークショップの提案がされており、中々面白いと思う。在校生、地域住民、教職員等20～30名と書いてあるが、E者で実施の実績はあるのか、どのような意見が吸い上げられたのかといった点を含めて詳しく教えて欲しい。

E者：子供たちあるいは地域住民の方が何を大切にしたいか、今後どういう施設空間を作りたいかというワークショップについては数多くの実績がある。今回

提案しているのは、既存の校舎には色々な記憶、思い出がある場所なので、この機会に色々な年代の方が学校に対してどんな思いを持っているか、ワークショップを通して色々吸い上げ、それを新しい校舎に引き継げるもの、引き継げる要素としてどんなものがあるのかというのを拾い出し、検討や建築プランに活用できるよう整理したいと考えている。

手法については在校生という比較的年代の小さい子供たちから卒業した若者、あるいは何十年前に卒業した地域の比較的高齢の方、そういった色々な年代の方が一緒に検討できる場を作ることによって新しい学校に対する思いを、ある意味醸成する場にもなると思うので、そのような機会としても捉えてこの場を効果的なものにできたら良いと考えている。

中村委員：学校活動への影響が最小限になるスケジュールが詳細に検討されているが、これは体育館が改築でも新築でも配置が変わらない位置関係になっている。新校舎等の配置の可能性は他にもあると思うが、これは学校活動への影響が最小限というのがやはり最優先されるべきという考えがあるのか、それとも一例として示しているだけなのか。

E者：提案書で示したのは一例で、実際にはこれを踏まえつつも、より多くのパターンについて検討する必要があると考えている。ただ、仮設校舎の有無ということで、仮設を作ることによって体育館の位置も含めて色々な配置が考えられるが、まずは校舎を仮設校舎ありなしで見た時にどのようなメリット・デメリットがあるのか、あるいはスケジュール、学校活動へどういった影響があるのかというところをおさえつつ、後は体育館、児童クラブがそこにどういう条件でクリアできるかというところで枝分かれしていくと思うので、実際の業務の中ではそういったことをしっかりと詳細に設定して検討できればと思う。

(3) 最適者及び次点者の特定について

- ・本プロポーザルの「最適者」及び「次点者」を特定した。

3 その他

- ・今後の予定について事務局より説明を実施。

以上